

## 1. 描く前のプラン

### 1-1. 観察により得た動機:

- ・絵を描く動機を言葉で表すと描きたいイメージが明確になる。

例 「パリッとした白い花卉により越前海岸の冬の寒さに耐えて咲くたくましさを感じさせたい。」

■コトバはモチーフのようなもの、野に咲く花のイメージのようなもの。コトバを使って観察しましょう。

■描きたいモチーフにはどんな色や形があるかを文章で書いてほしい。

なぜ文章にする必要があるでしょうか？ 目には映っているが見えていないことが多いからです。

描きたいという個人的な動機を具体化しましょう。なんとなくキレイで止めるのはもったいない。

■同じ花でもコトバの違いにより描く花は違う。描きたいと思う理由をコトバにして描きたいイメージを固める。

「越前海岸のパリッとした厳しい冬の白い花卉」と「暖かいベランダの我が家のスイセン」では描く動機が違う。

■そういえば、生成 AI が生成する画像は指示するコトバにより異なる。

### 1-2. 表現したいこと

- ・常に4Mを意識下に置く:

More Dimensional(立体感、奥行き感)、

More Palettes(色のバリエーション)、

More Detail(細部の構造と微妙な質感)、

More Clarify(混雑にし過ぎず、スッキリ感)

- ・葉: 青白いブルーム、細密な葉脈、一枚の葉色の変化。陰色、葉の筋と色の微妙な変化に気づいた。

- ・花の前後感: 2株の花の前後感、花と花の前後感、1つの花の奥行き感を強調したい。

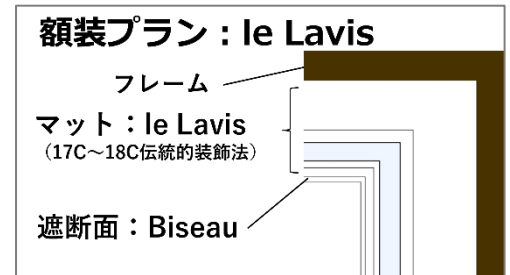
- ・葉の前後感: 2つの株の8~9枚の葉色の違い、1枚の葉の奥行き感(幅、ねじれ、葉の厚み)を出したい。

### 1-3. 植物画と調和する額装プラン: le Lavis(ラビ)

- ・白い花卉と青白い葉と調和するマット(le Lavisの形、色味)、フレーム(色味)

- ・パリッとした花卉の感じを助長するマット、Lavis、Biseauの色味

- ・青白い葉色と調和するマット、Lavis、Biseauの色味



## 2. 構図検討: 2案

- ① 2株の花房を重ねる。前花房の下部を主役にする。
- ② 茎を傾斜させて画面に動きを出す。
- ③ 三角の大小余白を使い、全体のバランスをとる。
- ④ 必要なら下部余白に要素を置く。
- ⑤ 葉の曲がりやねじれを活かして画面に動きをつくる。

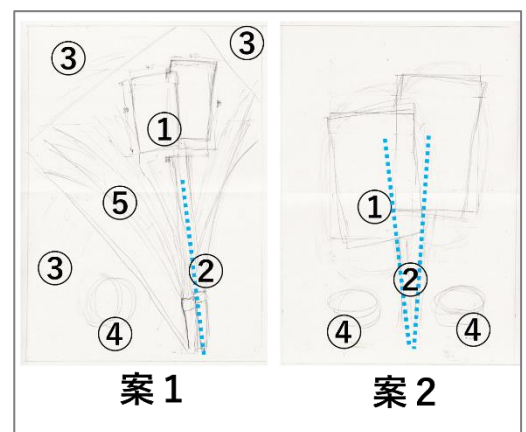
## 3. 現場でのスケッチ・色味の確認

### 3-1. 「よく見て描け」→「いつだってよく見ているのに ^ω^」

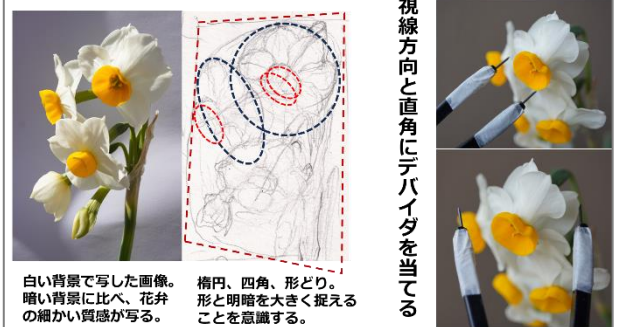
■「よく見て描きなさい」には幾つかの意味あり。

- ・モチーフの全体像を、トリミング範囲、余白
- ・描いている紙面の絵の状態、再現性、不自然さ
- ・立体感、空間、表面の質感、形、バランス
- ・色の変化、明暗
- ・植物の特徴が表れている大切な細部
- ・己れの気分、etc.

■これらの中の何かが足りない、という意識で取り組む。

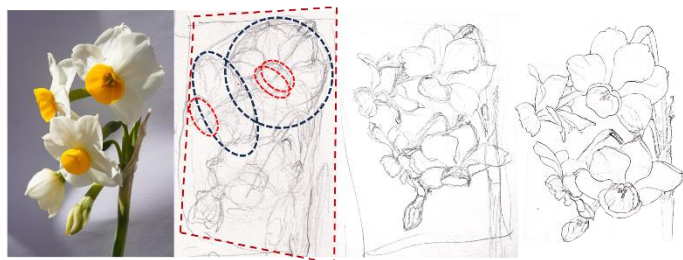


### 現場で素早くスケッチ: 形どりと採寸



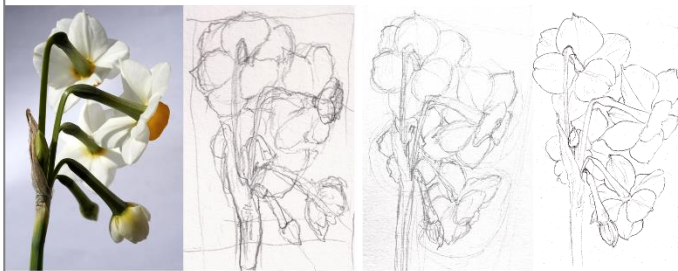
### 3-2. 現物を観察しながら、短時間で正確にスケッチするために

#### 現場で素早くスケッチする：楕円と円筒で形取り



白い背景で写した画像 楕円、四角、形どり ラフスケッチ 決定線：正面向き

#### 現場で素早くスケッチする



白い背景で写した画像 楕円、四角、形どり ラフスケッチ 決定線：後ろ向き

### 3-3. 花房の2つの決定線を組み合わせることで構図に沿って転写する

### 3-4. 2株の葉を花房に付け足して描き、全体の決定線を完成する。2つの構図案の決定線を描いた。

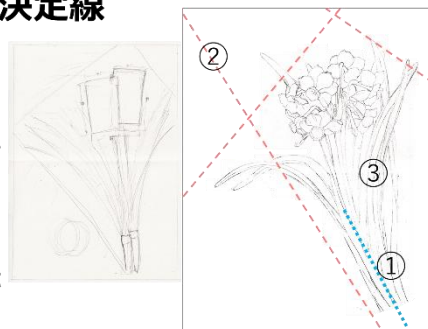
#### 2つの花房の決定線を転写により合成

- 2輪の花群の前後感を出す。
- 花房全体を球体にした。
- 花の裏側も描く。



#### 構図の精緻化と決定線

- ① 中途半端だった傾斜を約30度に。
- ② 余白の枠を決めてから合成画を配置。
- ③ 8枚の葉の曲がり方により絵に動きと回転感をつくる。



#### 構図案と決定線



### 3-5. 葉、つぼみ、茎、苞の観察ポイント

- ・葉：葉脈、ネジレ具合、先端の形状と色味、粉状の青白いハイライト、側端縁の厚み、表面と裏面の色の違い

葉の細部、色や形の変化を  
観て気づく。画像資料は1枚  
だけでは足りない。



#### つぼみの観察



- ・つぼみ：花卉の曲面のスジ、黄緑の色味の変化、開花具合による色味の違い





・茎:色相の変化、鮮やかさの変化、薄皮の細いスジ色、ハイライト

**根元の半透明な浅黄色の微妙な変化の美**



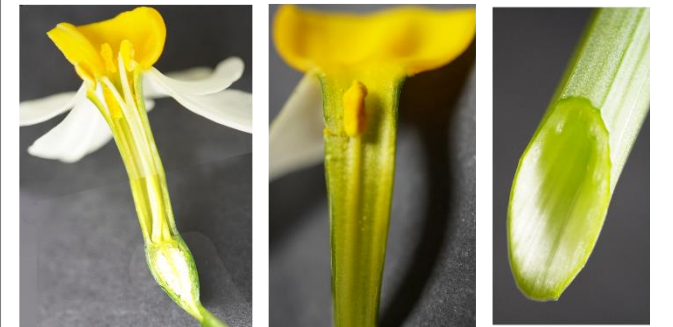
**苞の観察**

・ガサガサ感は、苞の葉脈線を線描きすることで。  
 ・茎の透け感は、苞の固有色（薄茶色）と茎の固有色（緑）の中間色を苞に載せる事により錯視できる。



・苞:ガサガサ感をシワと細線で表現する。  
 滑らかな曲線のスジだけにするとガサガサ感が出にくい。シワの部分で盛り上がるスジ、半透明の薄皮に透けて見える茎色、苞にもハイライトを付与する。

**細部の理解のために分解・切断して調べる**



**3-6.細部を理解すると自信をもって描画できる**

・花の切断面の観察:メシバが2本、短いオシバが3本、長いオシバが3本交互に花卉の筒から生えている。  
 ・茎の切断面を虫眼鏡で観察する:新たに気付くことが多い(略)です。

**4. 彩色**

**4-1. 花卉の彩色**

・陰色:アイボリーブラックをベースにする。陰色をボカして拡げ過ぎる花卉の白さが減って汚れ感が目立つ。奥まった暗い部分には陰色を重ね塗りする。調子に乗って陰色彩色し過ぎず、足りないと感じる程度に控えめに。  
 ・花卉は薄黄ベージュ色であるが、その色を花卉全体に塗らない。陰色と白い部分の境界部分のみにわずかに薄黄ベージュ色を重ねるだけで、花卉の微妙な黄色っぽさを感じる。



## 4-2.葉と茎の彩色

・青白いブルーム色(コバルトブルーまど)を薄く、葉脈線方向に沿って細く載せる。

葉脈をよく観察すると、葉脈の間に青白い色粉が線状に載っている。

・葉の先、中間部、根元に近い部分で色が大きく変化している。

・細い筆により細かな質感を描きこむ。  
葉の縁に線状のハイライトを設けることにより葉の厚みを表現する。

・くさび状の葉の重なり部分のコントラストを高めて引き締める部分を作る。

### 初段階の葉と茎の彩色



- ・青白いブルームを薄く、葉脈線方向の運筆。
- ・必須：現物を拡大観察。
- ・絵具の色見本紙に照し合わせて使う絵具を同定する。
- ・同じ色の絵具だけで全体を仕上げない。部位による色味の変化を確認しながら着彩。

## 5. 額装

### 5-1.額装による空間デザイン:インテリアコーディネート

■作品を額で装う & 空間を額で装うという2機能。

■絵を魅力的に引き立てると同時に、余白(マット)を装飾して美しくする。

この感性が欠如するとせつかくの作品を台無しにしてしまう。

■今や、額装なしには美術鑑賞はありえない。

■額は主役ではないが絵が新たな魅力を見せる調度品。この魅力に気付いてしまったらどうする？

■ Encadremnt

■マット(余白)の美にこそ額装の本質がある。

絵が完成したら、額装シミュレーションを行う：  
・白いパリッとした花卉、葉の薄青色のブルームを邪魔しないようなLavisの色を決める。



### マットの制作

・マットの制作：Lavisの色は薄青緑に決めた



### 5-2.事前シミュレーション

・絵が完成したら、パソコン上のマット画像と合成してLavisの微妙な色味を探る。

### 5-3.マット制作

・線は烏口を使い引いた。彩色は透明水彩絵具を混色調合し、リス毛筆で薄く均一に彩色した。

・何種類かのマーブル紙から適切な色味を選んで3mm幅に切って貼った。

### 5-5.白黒2種類の額フレームに額装して確認。

壁の明暗により白っぽいか黒っぽいかを使い分けるとよいことを確認。

### 完成：フレームを変えてみる



以上